

都市再生整備計画 事後評価シート  
本宮市街地地区(第2期)

令和5年3月

福島県本宮市

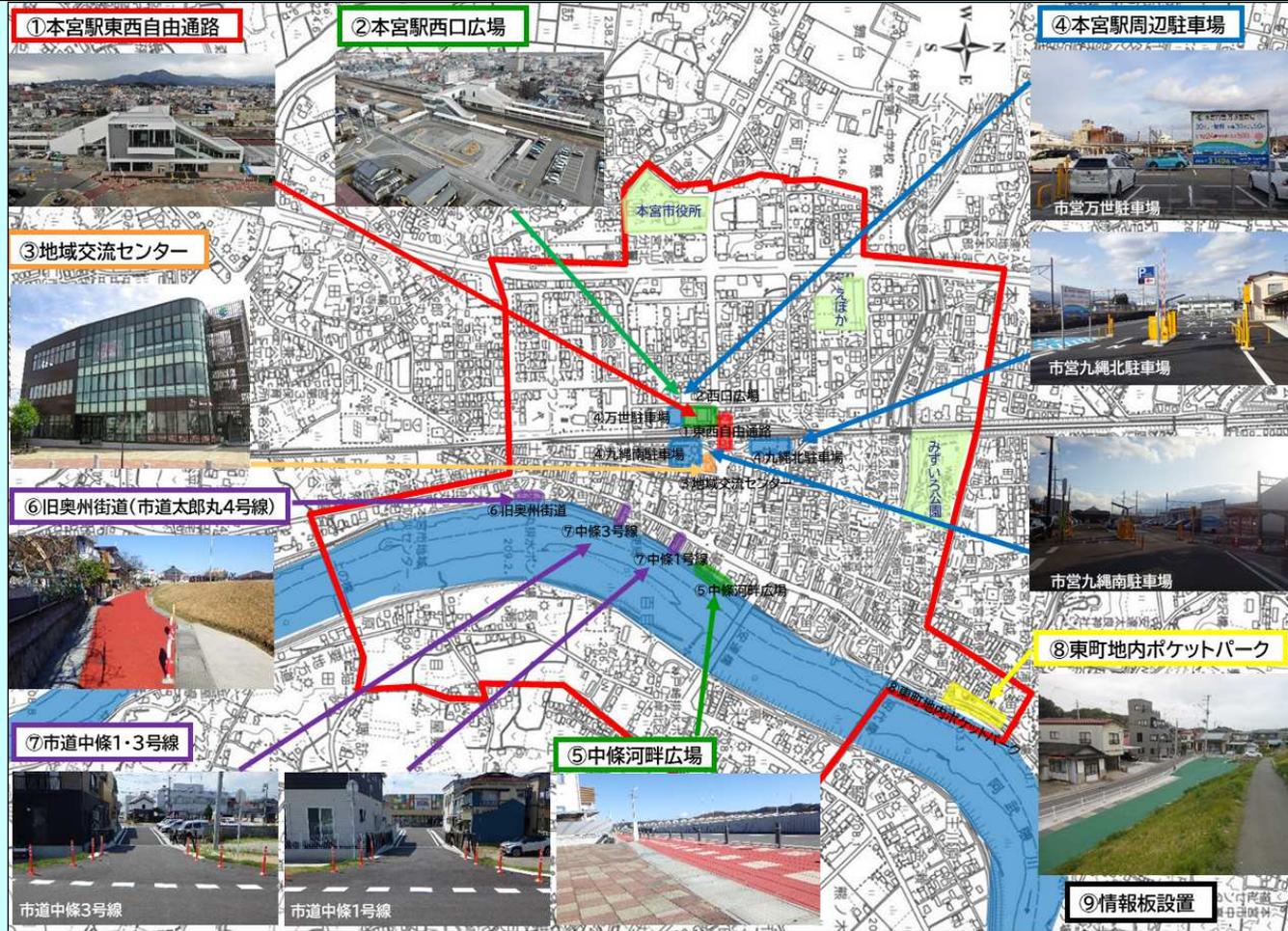
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福島県	市町村名	本宮市	地区名	本宮市街地地区(第2期)			面積	135ha		
交付期間	平成28年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	3,576百万円	国費率	40%				
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名 道路(本宮駅東西自由通路、本宮駅西口広場)、地域生活基盤施設(東町地内ポケットパーク、本宮駅周辺駐車場、情報板設置)、高質空間形成施設(本宮駅東西自由通路(EV、多機能トイレ)、本宮駅西口広場(シェルター)、旧奥州街道(市道太郎丸4号線)、高次都市施設(本宮駅東西自由通路(観光情報スペース等)、地域交流センター)								
	当初計画から削除した事業		事業名 地域創造支援事業(地域交流センター、防犯灯)、事業活用調査(事後評価)								
	新たに追加した事業	基幹事業		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	地域創造支援事業(防犯灯)	防犯灯設置予定地が阿武隈川本築堤整備事業完了後に設置する計画であったが、築堤事業スケジュール調整の結果、本計画期間内に事業を行う事が困難となったため。		1事業あたりの整備効果を、約0.4%としているため「目標を定量化する指標」を0.4%下方修正を行う。					
		基幹事業	地域生活基盤施設(本宮駅周辺駐車場)(3箇所)	本事業において、駅利便性の向上、地域交流センター建設により中心市街地活性化促進が予想され、駅周辺利用者の増加が見込まれるため、新たに2か所の市営駐車場について実施稼働率の低い月極駐車場から機械管理式駐車場に運営形成を変更し、実質駐車可能台数増による有効活用を図るため。		事業拡充による1事業分の整備効果を見込めるため、「目標を定量化する指標」の上方修正を行う。					
		基幹事業	道路(市道中條1号線)	「中心市街地の回遊性ネットワーク」と河川を散策できる「水と緑の歩行者ネットワーク」を繋ぐ市道において、歩行者が安全にアクセスできるようにするとともに、緊急車両の通行が可能な道路拡幅を行うため。		事業拡充による1事業分の効果が見込めるため、「目標を定量化する指標」0.4%の上方修正を行う。					
		基幹事業	道路(市道中條3号線)	「中心市街地の回遊性ネットワーク」と河川を散策できる「水と緑の歩行者ネットワーク」を繋ぐ市道において、歩行者が安全にアクセスできるようにする。		事業拡充による1事業分の効果が見込めるため、「目標を定量化する指標」0.4%の上方修正を行う。					
		基幹事業	地域生活基盤施設(中條河畔広場)	堤防と民地の間に生じる窪地の嵩上げにより、イベント等に活用できる「川とまちの交流の場としての空間づくり」を行うため。		事業拡充による1事業分の効果が見込めるため、「目標を定量化する指標」0.4%の上方修正を行う。					
	提案事業										
	交付期間の変更	当初変更	平成28年度～令和2年度 平成28年度～令和3年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		影響なし					
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数値 モニタリング	数値 評価値	目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	指標1	歩行者交通量	人/14h	780 H26	860 R3		1,127	○	あり なし	駅東西自由通路の整備により歩行者移動の安全性や快適性が向上したため、西側住民の駅等へのアクセスが車から徒歩に変更したことに加え、地域交流センターや中條河畔広場の整備により駅周辺の交流機能が向上したことにより市街地への往来者の増加に繋がった。	
	指標2	市街地の安全・安心・快適性	%	86.6 H26	90.8 R3		89.8	△	あり なし ○	駅東西自由通路や駅西口広場の整備による交通・安全対策に係る満足度は高まったが、計画期間中に駅周辺市街地が台風水害で被災したことによる満足度のポイントが伸びなかった。	
	指標3	本宮駅東口接続道路の渋滞長	m	375 H27	300 R3		245	○	あり なし	駅西口広場と駅周辺駐車場の整備が未了であるが、駅東西自由通路の開通と駅西口広場の暫定供用開始により自動車交通が東西に分散されたことで一定の渋滞緩和の効果が確認できた。	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標	単位	従前値 基準年度	目標値 目標年度	数値 モニタリング	数値 評価値	目標 達成度	1年以内の 達成見込み	効果発現要因 (総合所見)	フォローアップ 予定時期	
	その他の数値指標1	-									
4)定性的な効果発現状況											
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった							
	官民連携による取組	中條河畔広場整備事業を計画に追加するため、地域住民や関係団体の意向確認のための「意見を聴く会」を実施すると共に、事業主体である国土交通省と実施に向けた協議を行った。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 地域住民や関係団体の理解と協力を得るため意向調査やワークショップを実施し、官民連携を図っていく。			
持続的なまちづくり体制の構築	TMOの(株)Mot.Comもとみやが中心となり、商工会や観光協会と連携しながら春、夏、秋の祭りや冬のイルミネーションイベントを実施し、まちづくり活動を展開した。		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も各団体が連携しながら継続してまちづくり活動を展開していく。				

## 様式2-2 地区の概要

### 本宮市街地地区(福島県本宮市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値	目標値		評価値		
大目標 子どもからお年寄りまで安全・安心・快適を実感できる、東西に活力あるまちづくり	歩行者交通量	単位:人/14h	780	H26	860	R3	1,127	R4
目標1 本宮駅周辺環境の利便性の向上による、東西交流の活性化	市街地の安全・安心・快適性	単位:%	86.6	H26	90.8	R3	89.8	R4
目標2 憩いの空間の創出を目指したまちづくりによる、安全・安心・快適性の向上	本宮駅東口接続道路の渋滞長	単位:m	375	H27	300	R3	245	R4



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駅東西自由通路の整備により、駅東西地区の駅利用者や歩行者往來の安全性や快適性が向上している。</li> <li>・駅前に地域活性化や賑わい創出の拠点となる地域交流センターが整備されたことにより、多世代の方々の交流機能が図られている。</li> <li>・東町地区ポケットパークや中條河畔広場、旧奥州街道の整備により、水辺空間での憩いの場や交流の場が新たに創出された。</li> </ul>
今後のまちづくりの方策(改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備された施設等の利活用を推進する取り組みを行い、継続的な地域活性化と賑わい創出を図っていく。</li> <li>・駅西口広場へアクセスする道路の歩道を整備し、歩行者の安全性や快適性を高める。</li> <li>・駅東西地区を分断している鉄道踏切と狭隘ガード下の改良事業を推進し、更なる東西往來の安全性・快適性の向上を図っていく。</li> <li>・阿武隈川築堤事業及び支流の安達太良川築堤事業が完了したので、残る支流に架かるJR橋の嵩上げ整備事業の推進をJRIに強く求めていく。</li> </ul>